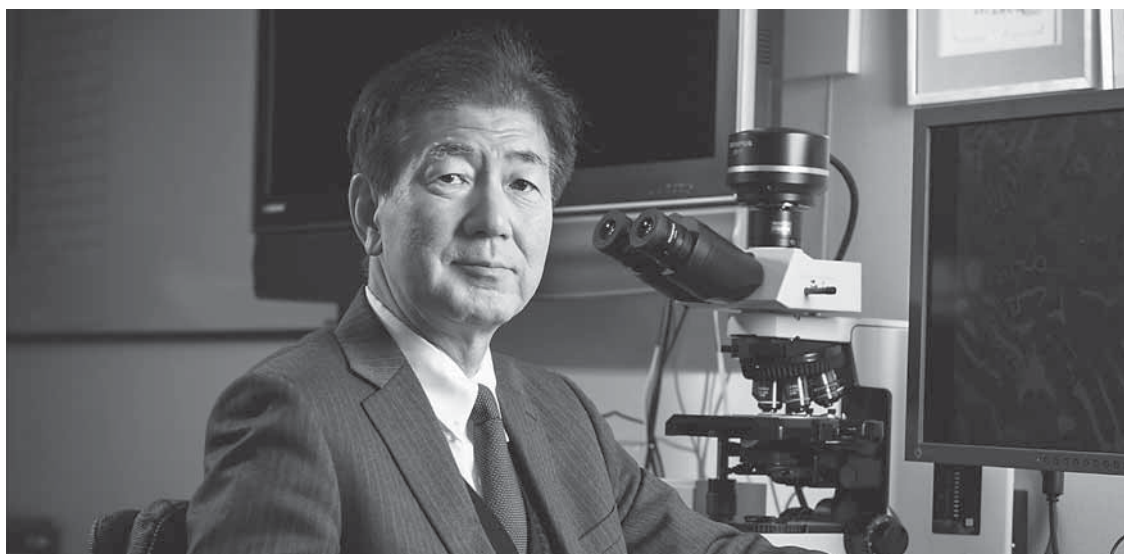


第36回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会の 開催にあたって

今回の学会では、「サルコイドーシスの病因論」をテーマに掲げさせていただきました。疾患感受性を有する患者が、なんらかの環境要因を契機に、特定の原因物質に暴露されてサルコイドーシスが発症するという点では、既に国際的合意が得られています。原因物質に関しては、特に日本のアクネ菌説と欧米の結核菌説が有力視されていますが、これまでに十分な国際的議論は行われていません。学会初日のシンポジウムでは、海外から7名の著名な研究者に参加いただき、原因物質に関して各人それぞれの意見をお伺いするとともに、十分な時間をかけて議論いただく予定でいます。予算の関係から海外からの先生方には、渡航費自前での参加をお願いせざるを得ませんでした。最終的には打診した招聘研究者全員に参加いただけることになり、心より感謝申し上げる次第です。2年後には吾妻安良太先生が会長となり世界サルコイドーシス学会(WASOG)が日本で開催されます。今回の学会終了直後に海外の先生方を交えて、原因細菌に関する国際共同研究の打ち合わせを行う予定です。国際共同研究を通じて2年後の国際学会では一応の合意形成を目指したいと考えています。また、サルコイドーシスと同様に、原因物質に対する過敏性免疫反応が原因となって起こる代表的な肺疾患に関して二人の先輩に特別講演いただきます。安藤正幸先生には夏型過敏性肺炎の研究経緯を、吉澤靖之先生には鳥飼病など慢性過敏性肺炎と肺線維症についてご講演いただきます。サルコイドーシスとの共通点や相違点などを考察する機会となれば幸いです。

また会長講演の機会をいただきまして「サルコイドーシス病因研究を振り返って」と題した演題を準備したいと考えています。大学院時代からこれまで膨大な時間と研究費をサルコイドーシス病因追求に費やしてきました。そのなかで論文として日の目をみたものはごく少数であり、これまでに蓄積されたデータと自分なりの経験を、この機会にサルコイドーシス学会の若い先生方にお伝えしておくことによって、今後日本におけるサルコイドーシス病因研究が段階的かつ持続的に展開し発展してゆくことを期待したいと考えています。毎年1回行われてきた本学会には、研究内容だけではなく人間関係においてもたくさんの思い出があります。自分がこれまで楽しく研究者人生を歩んで来られたのも本学会に支えられてのことです。私をサルコイドーシス研究に導いていただいた故松井泰夫先生、アクネ菌研究を激励していただいた故三上理一郎先生、サルコイドーシス研究を科学者の立場で常に指導くださった安藤正幸先生や吉澤靖之先生、病理学の恩師であり生涯の研究仲間でもあった武村民子先生、そしてサルコイドーシス学会を通じて知り合った山口哲生先生をはじめ数多くの研究仲間の諸先生方へ、最後にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。



2016年盛夏

第36回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会 会長
東京医科歯科大学 人体病理学分野 江石 義信